

協会ニュース

KYOKAI NEWS

■「痛みをとる」の出版企画

「尊厳死の宣言書」の第2項に「苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を」がある。痛みを遠ざけながらQOLを高める願いだが、そのための医療用モルヒネの効用は医療者の間でも十分に理解されているのだろうか。

協会は「痛みをとる」をテーマにした出版を企画して準備をすすめている。長年、緩和医療に携わっている加藤佳子・東北支部理事(山形県米沢市・三友堂病院緩和ケア科長)、がん緩和医療の専門医の渡辺正・東海支部理事(東海中央病院名誉院長)と、東海支部の

あとがき

○…「尊厳死というレトリックは『たちの悪い宗教』のようなものです」。尊厳死法制化の是非を取り上げた新聞を読んでいて、反対論者のこんな言葉に出くわし、わが目を疑った。最近、加齢性眼病を治療中の身なので、見誤りかと、目をしばたかせた。間違いない。その瞬間、怒りに似た感情がわいた。いくら本人の発言にしても、尊厳死そのものをさげすむような言葉をそのまま掲載する新聞に対してである。

○…今号「法制化の動き」(4頁)でも紹介した、鈴木裕也副理事長もインタビューを受けた朝日新聞「耕論」(5月9日付)のことだ。異なる立場の三者をインタビューして各人の主張を記者がまとめている。その1人、法制化反対論の大学准教授(宗教学者)が述べるなかに「たちの悪い宗教」が登場する。要するに「そんな姿で死にたいですか、事前に自分の意思を表示しておけば…、と脅し文句みたいにささやいて不安を

青木仁子支部長、小林司副支部長らが編集にあたり、年内発行を目指している。

■9月に世界連合シカゴ大会

死の権利協会世界連合の第20回世界大会は9月17日から5日間の予定で、米国シカゴで開かれる。日本尊厳死協会からは岩尾總一郎理事長(世界連合理事)、長尾和宏副理事長が出席する。大会では、長尾副理事長が終末期医療をめぐる日本の状況について講演する予定。

あおり、一方の手で救いを約束する」と尊厳死を描き、「意図的ではないにせよ、結果として死への誘導になっている」と。「たちの悪い」から導いた「死への誘導にならないか」が見出しへなっているから、記者もこの論理展開に感心したのだろうか。

○…政治の舞台で動きが高まると、マスコミでも「尊厳死法制化」の問題が取り上げられる。そのたび新聞、テレビに賛否両論が並び、それで世間の関心が高まり、国民に議論が広まることを喜ばしく思ってきた。しかし、尊厳死に対しこんなおどろおどろしい言葉目にしたのは初体験である。諸宗教のなかにはその所作から「たちの悪い」ものもあるのを、宗教学者はご存知なのかもしれない。しかし、その比喩で尊厳死を語ることの適否を新聞は考えなかったのだろうか。尊厳死運動は人権運動であると私たちは自負し、社会から認められている。

(m)

会報 リビング・ウイル 第154号

2014(平成26)年7月1日発行

(1月1日、4月1日、7月1日、10月1日発行)

発行所 一般社団法人 日本尊厳死協会

発行人 岩尾 総一郎

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501

電 話 03-3818-6563

F A X 03-3818-6562

メ ー ル info@songenshi-kyokai.com

ホームページ <http://www.songenshi-kyokai.com>

郵便振替口座 東京 00130-6-16468

リビング・ウイル

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY NEWSLETTER 2014年(平成26年)7月1日発行 No.154



LWを書いて、よかったですね

協会の会員は12万3356人です(6月9日現在)

主な内容

- 社員総会開く……………2頁
- 台湾見てある記……………5頁
- 昨年度の医療相談……………11頁
- 法制化の動き……………4頁
- 震災後の風景……………8頁
- 支部のページ……………12~31頁

法案上程めざすも、微妙な国会会期末

各党で党内議論進める

超党派国会議員による「終末期医療における患者の意思の尊重に関する法律(案)」(いわゆる尊厳死法)の今国会(6月22日閉会)提出は、会期末の政治状況も絡んで微妙な情勢になっている。「尊厳死法制化を考える議員連盟」(増子輝彦会長、169議員)が各党に要請した党内議論集約も時間を要した。

脱したい議論の堂々巡り

議員連盟を中心に政治の場で法制化が議論されて10年近い。この間、議員連盟は延命措置の「不開始」と「不開始+中止」を内容とする2法案を作成した。こうした立法に賛否両論があり、政治が慎重な態度をとるのは当然だ。ただ議論の堂々巡りを脱しよう



記者に対応する自民PTの山口座長(前列中央)

と動いたのは自民党の「尊厳死に関する検討プロジェクトチーム(PT)」(山口俊一座長)。昨年12月、与野党各党に「2014年4月までに党内議論を終えるよう」要請した。

これを受けた議員連盟は「2014年通常国会に上程をめざす」ことを確認、5月連休明けにも各党に意見集約(議員立法も党それぞれの党内手続きが必要)してもらい、議員連盟としての最終判断をめざした。

自民PT、立法促進大勢も

精力的に動いたのは自民PT。8回の会合を開き、日本尊厳死協会をはじめ、法制化に反対する日本医師会、障害者団体などの意見を改めて聴き、丁寧な議論を重ねてきた。そして自民PTとしては法律2案のうち「中止も対象」にしないと立法化の意味がないこと、「法律案の基本理念に医師、薬剤師、看護師だけでなく歯

科医師も加える」ことを確認した。日本歯科医師会が「口腔外科の分野では、看取りに立ち会う歯科医師も多くいる」と要望していた。

自民PTでは、出席議員から「議論も尽くしており、法案を国会にあげて国民的議論」と法案の国会提出を求める意見が多くた。ただ、「厚労省ガイドラインの運用で十分」「障害者が生きにくい世の中をつくることになる」と根強い反対意見もある。このためPT執行部も今国会上程をめざしながら、慎重に党内集約に取り組んでいる。

自民以外では、民主党が「党内意見交換会」を開き、「維新の会」「みんなの党」もそれぞれ会合をもった。協会からは岩尾理事長らが出席して立法化を訴え、意見交換した。一方、反対派の動きも活発になっている。反対グループが主催する「院内集会」が5月22日、参院議員会館で開かれ、10名を超す与野党国会議員が参加した。

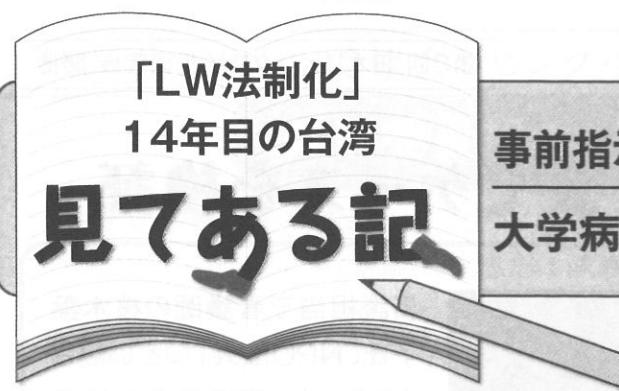
法案提出へ向けた動きにマスコミの関心も高かった。新聞紙面でも、朝日新聞が「耕論 尊厳死法は必要か」(5月9日朝刊)に1頁をあてて、協会から鈴木裕也副理事長がインタビューに応じて「静かな看取り、条件整備を」が掲載された。

いわれなき批判には、協会反論

法制化反対意見のなかには、日本尊厳死協会に対し誤解に基づく批判を声高に浴びせる場面がみられる。いわれなき批判に対し、協会は公の場で反論した。

自民尊厳死PTでも、反対派議員が「安楽死協会としてスタートした協会は都合が悪いから尊厳死協会に名を変えた」とか、協会創設者、太田典礼氏の障害者問題に対する発言を著作から引用して、協会をいかがわしい団体と印象づけようとした。法制化議論を離れる発言に、PT幹部からたしなめられる場面も。

これに対し6月5日開かれた自民PTの会合で、岩尾理事長は「いまだ安楽死と尊厳死の違いを理解していない議員が存在するのは残念」として、協会批判発言に反論した。著作に書かれているのは太田氏の個人思想であって、協会は個人思想とは決別しており、現在の尊厳死協会の思想がなんら批判を受けるいわれはない、と明快に断言した。



事前指示書保有率は日本の12倍

大学病院でも穏やかな旅立ち

日本尊厳死協会
副理事長

長尾 和宏

GWを利用して「リビングウイル(LW)法制化」14年目を迎えた台湾事情を見てきました。台湾では2000年に「安寧緩和医療条例」が制定され、LWを含む事前指示書が法的に保障されています。宗教や文化が違う欧米より、すぐお隣の台湾に学ぶ点が多いのではと考えましたが、果たしてその勘は当たっていました。

今回の訪台は、拙書『平穏死・10の条件』『医療否定本に殺されない48の真実』の台湾版が出版されたのと、法制化に尽力された台南市の成功大学、趙可式教授が昨秋、当協会を訪問されたことが縁で実現しました。台湾は九州と同じ位の大きさ。島の西側には新幹線が走っています。台北が博多、台中が熊本、台南が鹿児島といった感じでしょうか。

● 法によるLW登録者30万人強 ●

台湾の人口は2300万人と日本の5分の1。そのうち法律による事前指示書の登録者は30万人強だそうです。当協会の会員数の2・5倍。LW保有率は単純計算で日本の12倍になります。私ももっと頑張って啓発しなければと思いました。

さて、成功大学病院の10階にある緩和ケア病棟で活動する趙先生を訪ねました。そこは一般病棟だったのを改装して開設され、がん病棟と隣り合わせでした。ベッド数は20床で個室2室のほかは2人部屋。患者さんの平均在院日数は1週間ほど。緩和ケア病棟で1日を過ごした感想としては、ボランティアの大活躍と、亡くなられた方の寄付が病棟経営に寄与していることをあげておきます。

緩和ケア病棟に備えてあったカルテを開けると最初のページにピンク色の「事前指示書」が挟まれていました。「事前指示書」は患者さん自身のLWに加えて

家族の同意書や代理人指定書の総称です。事前指示書は4枚綴りで、原本は行政院衛生署(日本の厚労省)に届きます。2枚目がピンクの医療機関用で、台湾では赤は縁起がいい色だそうです。3枚目は家族の保管用、4枚目は大学病院の倫理委員会に回るそうです。



成功大学病院=台湾台南市

今回、台湾を訪ねて知ったことは、事前指示書には幾つかの書式があることでした。意思表明書も本人用が2種類あり、入院してから表明する病人用のほか、健常な人用で「民衆版」と書かれものがありました。あと「急変時には蘇生処置不要」「意思撤回」の書面も。なんと、家族用の指示書もありました。本人のLWがない場合、家族のサインで延命治療が中止できるのです。事前指示書の「撤回」書も。家族だけの書類には驚きました。

成功大学病院で尊厳死を迎えた何人かの映像を見せて頂きました。女性のお坊さんが旅立ちに付き添っていたのが印象的でした。高度な医療を担う大学病院でも「穏やかな旅立ち」が可能なのです。法制化以降、管だらけの旅立ちは激減したそうです。わが国のLWの法的担保のヒントをいくつか見つけて帰国しました。

なお「台湾安寧緩和医療条例」の日本語訳は、朝日新聞電子版アピタルの私の連載「町医者だから言いたい!」の5月12日号で、どなたでもご覧頂けます(無料)。ご一読ください。

第3回研究会でケースを検証

第3回リビングウイル研究会が8日、「生かされなかつたリビングウイル」をテーマに、東京都港区の政策研究大学院大学のホールで開かれた。研究会としては初の全編ディスカッション形式で、約200人が詰めかけた会場からも、活発な意見が飛び交うなど盛り上がりを見せた。

パネリストには、東京医科歯科大学大学院非常勤講師の伊勢田暁子氏、尊厳死協会の電話



相談担当で看護師の桜木葉子氏、NPO法人「つどい場さくらちゃん」理事長の丸尾多重子氏、長尾クリニック(兵庫県尼崎市)院長で、尊厳死協会副理事長の長尾和宏氏、九州大学名誉教授で、「信友ムラ事務所」代表取締役の信友浩一氏、みのかも西クリニック院長の益田雄一郎氏の6人が務めた。医療問題に詳しいジャーナリストの辰濃哲郎氏が進行役を担った。

今回の研究会は、尊厳死協会が遺族に対して実施しているアンケートの調査結果をふまえ、リビングウイルが生かされなかつたケースを再調査した。そのなかから、2ケースを選んで詳細を提示したうえで問題点と打開策を議論した。

最初のケースは、突然倒れて心肺停止に陥った90歳の母親のケースだ。尊厳死カードを持っていながら、家族の気が動転していて救急車の隊員に示すことができなかつた。その間に蘇生して病院に運ばれた。そこでも尊厳死カードを示したが、一度つけた人工呼吸器は「犯罪になるので外せない」と聞き入れられなかつた。

パネルディスカッションでは、救急における終末期の問題に集中した。日本救急医学会のガイドラインでは、こういった本人と家族の意思が一致している場合は、ひとたび生命維持装置を装着していても、「中止」ができことになっている。だが、実際の救命現場では生命をつなぐことに主眼が置かれ、それを中止することは①医師の使命に逆行する②犯罪に問われかねないこと、などから実施されていないのが実情だ。

会場にいた医師からは「法律ができれば、心理的な

救急医療医現場での 中止が課題

負担は軽くなる」との発言や、パネリストからは「救急車を呼ぶかどうか。人工呼吸器を装着するかどうかなどを事前に家族で話し合って

おけば、こういった問題は起きない」などの意見も出た。

第2のケースは84歳になる父親。介護施設に「胃ろう」を勧められた。尊厳死カードを提示すると、医師は「胃ろうをしていいのかなあ」と逡巡しつつも、娘は「回復するかもしれない」との説明に背中を押されて承諾した。痰の吸引も苦しそう。人工呼吸器は断つたが輸血はした。どんどんチューブが増えしていく。どこまでが不治かつ末期なのか、わからないし、医師も伝えてくれない。

このケースについては、尊厳死の要件となる「不治かつ末期」の定義について話し合つた。病態や年齢によってさまざまな不治かつ末期について、「それを定義するのは難しい。医師や家族ら関係者が、末期だと思えば、そのときが『末期』なのだ」という意見や、「患者に伝えるべき医師のコミュニケーション力が不足している」などの意見も出た。

詳細は、ホームページにアップされる予定。

法制化に備え、で協会リビングウイル検討会スタート

外部委員招き、「望ましい姿」求め幅広い議論へ

日本尊厳死協会が発行するリビングウイル「尊厳死の宣言書」は40年近い歴史を通じて、本人の自律性に基づくLWとして社会的に高く評価されてきた。いま尊厳死法制化の議論が進むが、協会LWは法が求めるであろう「意思表明書」のモデルになり得るのか。協会は3月、「協会発行のLW検討会」を立ち上げた。外部有識者4人を委員に招き、幅広い議論をして年度内に報告書をまとめる方針だ。

法制化議員連盟が作成した「終末期医療における患者の意思の尊重に関する法律」(2案)に、LWに関する条文がある。任意になされた患者の意思決定を十分に尊重し(第2条)、延命措置の中止/不開始を希望する意思が書面その他の厚生労働省令で定める方法で表示され(第7条)、と定めている。

法律案がいう「意思表示」の要件、書式はまだ定かではないが、LW普及に先駆的に取り組んできた協会としては協会LWがモデルになればと期待している。ただそのためには法律が想定する意思表示の要件、書式などと整合性を図る必要があり、検討会の目的もその議論にある。

LW検討会は委員11人(協会7人、外部有識者4人)で3月発足した。2014年度協会事業として位置づけられ、2か月に1回、会合を予定している。

第2回会合では「望ましいLW」をテーマに、国内諸団体が発行する意思表明書や海外LW(台湾安寧緩



和医療条例による表明書など)を資料に議論した。LWもいろいろなタイプがあるなかで協会宣言書は自律性が高く、内容も包括的で、医療側の裁量の余地を残しているタイプ。ただ本人意思を宣言の形で表明するだけで、LWの設計としてはほかの機能はもっていない。

検討事項としては「意思表明書のスタイル」「意思能力の問題」「実効性の担保」などがあげられている。

■認知症の意思能力、代理人も検討課題に■

「意思表明書のスタイル」は、宣言型と個々の延命措置のチェックシート型をどう評価するか。LW作成時の証人、家族の同意が必要か、などが対象となる。

「意思能力」では、認知症などで意思決定、表示能力を失つたらどう取り扱うか。高齢社会で認知症の人が600万人と推定されるわが国では重要な課題になる。「実効性」の問題では、意思確認・更新が必要なら頻度とその方法、医療代理人制度を設計するならその権限と範囲なども大きな事項だ。

これらテーマごとの検討、議論を積み上げて、来年1月には検討会としての「報告」をまとめ、協会に提出する。法制化の暁には新しい協会LWづくりに反映させる予定だ。

| LW検討会委員 | |
|----------|------------------------|
| 青木 仁子 | 弁護士、協会副理事長 |
| 青山 邦夫 | 弁護士、協会東海支部法律研究会 |
| * 伊勢田 暁子 | 看護師、東京医科歯科大学大学院非常勤講師 |
| 岩尾 総一郎 | 医師、協会理事長 |
| * 北 村 聖 | 医師、東京大学医学部教育国際研究センター教授 |
| 古賀 順子 | 協会常任理事 |
| 鈴木 裕也 | 医師、協会副理事長 |
| * 友納 理緒 | 弁護士、看護師、衆議院議員政策秘書 |
| 長尾 和宏 | 医師、協会副理事長 |
| 信友 浩一 | 医師、協会常任理事 |
| * 宮島 俊彦 | 岡山大学客員教授、前厚労省老健局長 |

LWの受容協力医師第76報

2014年4月～2014年6月の間に新しく登録なされた医師の方々です。【会員医師は会とする】

| 医療施設名 | 診療科 | 医師名(敬称略) | 施設所在地 | 電話 |
|-------------|-----------------------|----------|----------------------|--------------|
| 札幌東徳洲会病院 | 血液・腫瘍内科 | 和野 雅治 | 北海道札幌市東区北33条東14丁目3-1 | 011-722-1110 |
| 吳羽総合病院 | 外科 | 緑川 靖彦 | 福島県いわき市錦町落合1-1 | 0246-63-2181 |
| JA長野厚生連新町病院 | 内科 | 細川 康雄 | 長野県長野市信州新町上条137 | 026-262-3111 |
| 東部練馬中央病院 | 内科 | 小澤 佳子 | 東京都板橋区徳丸3-19-1 | 03-3934-1611 |
| 篠原病院 | 内科 | 中林 瑞穂 | 東京都三鷹市下連雀6-13-10 | 0422-46-2251 |
| よみうりランド慶友病院 | 内科・神経内科 | 石原 直毅 | 東京都稻城市矢野口3294 | 044-969-3222 |
| 岡野クリニック | 内科・呼吸器科・循環器科・小児科・リハビリ | 岡野 昌彦 | 埼玉県越谷市赤山本町7-2 | 048-969-0223 |
| 内科小児科須知医院 | 内科・小児科 | 須知 雅史 | 愛知県常滑市栄町6-155 | 0569-35-2011 |
| 御浜はないクリニック | 精神科・心療内科 | 花井 進 | 三重県南牟婁郡御浜町上市木2197 | 05979-2-4976 |
| 大村病院 | 精神科 | 森村 安史 | 兵庫県三木市大村200 | 0794-82-1132 |
| 社会福祉法人香東園 | 内科 | 多胡 譲 | 香川県高松市岡本町527-1 | 087-885-2828 |

▼勤務先変更

| 医師名(敬称略) | 新医療施設名 | 診療科 | 施設所在地 | 電話 | 前勤務地 |
|----------|--------------------|-----|-------------------|--------------|------|
| 辻忠男 | 埼玉協同病院 | 内科 | 埼玉県川口市木曽呂1317 | 048-296-4771 | 埼玉県 |
| 小早川節 | 在宅療養支援診療所 波乗りクリニック | 内科 | 山口県宇部市東岐波丸尾4327-8 | 0836-59-1173 | 山口県 |

▼医療施設の所在地が変わりました。

| 医師名(敬称略) | 医療機関名 | 新住所 | 電話 |
|----------|-------------|------------------|--------------|
| 長坂不二夫 | シルバーケアクリニック | 東京都練馬区上石神井2-37-5 | 03-5903-9091 |

ご寄付ありがとうございました(敬称略)

| | | | | | | | | | |
|----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----------|-----------|-------------|---------|
| 青木 喜久子 | 2,000 | 大橋 博子 | 切手1,004 | 鈴木 登音子 | 10,000 | 宮脇 住治 | 1,000 | 匿名 | 10,000 |
| 阿部 敬子 | 5,000 | 大野 貢・テツ | 5,000 | 竹内 敬之助 | 10,000 | 森谷 ヒデ | 2,000 | 匿名 | 切手3,102 |
| 阿部 隆明 | 2,000 | 岡本 庄司りつ子 | 10,000 | 竹内 郷子 | 切手2,394 | 茂呂 一男・富子 | 切手1,000 | 匿名 | 10,000 |
| 安藤 政人 | 2,000 | 小久保 原道 | 5,000 | 田中 一夫 | 2,000 | 山川 清 | 切手2,992 | 【関東甲信越支部扱い】 | |
| 伊神 宏 | 10,000 | 加藤 とし子 | 2,000 | 中島 晋吳 | 切手2,460 | 山崎 武久・雅子 | 2,000 | 匿名 | 10,000 |
| 五十嵐 公輝敏子 | 1,000 | 古賀 美佐子 | 50,000 | 中島 明・淳子 | 2,000 | 山本 方子 | 2,000 | 【北陸支部扱い】 | |
| 磯野 栄子 | 2,000 | 児島 仁・圭子 | 100,000 | 長房 稔・頼子 | 10,000 | 和佐 千代子 | 2,000 | 田島みどり | 2,000 |
| 伊藤 貴美 | 切手2,600 | 近藤 みつ子 | 50,000 | 並木 柳子 | 9,500 | 匿名 | 1,000 | 匿名 | 2,000 |
| 岩瀧 忠敬 | 5,000 | 財家 一夫 | 切手9,120 | 西村京子・齋藤みね | 10,000 | 匿名 | 2,000 | 【関西支部扱い】 | |
| 内田 雅子 | 500 | 桜井 祐一琴子 | 1,000 | 西村 日貞子 | 1,000 | 匿名 | 2,000 | 高橋 波子 | 20,000 |
| 浦田 幸 | 10,000 | 佐藤 チエコ | 切手7,195 | 平岡 忠・静子 | 10,000 | 匿名 | 15,000 | 【九州支部扱い】 | |
| 枝松 勇・美世志 | 5,000 | 神内 久子 | 3,000 | 福士 九三子 | 3,000 | 匿名 | 切手7,748 | 井上 清 | 4,000 |
| 江原 芳子 | 16,030 | 菅原 延夫・チヤ子 | 4,000 | 福田 弘子 | 3,000 | 匿名 | 切手3,495 | 金城 芳子 | 5,000 |
| 江里口トシ子 | 1,000 | 菅原 延子 | 5,000 | 別府 清信・洋子 | 2,000 | 匿名 | 1,000,000 | 豊見城市在住 | 10,000 |
| 円地 真知子 | 3,960 | 杉田 茂子 | 10,000 | 星野 陽子 | 切手2,000 | 匿名 | 30,000 | | |

医療相談

月、水、金曜日午後1時～5時(変更あり)

病気や医療、特に終末期医療について心配ごと、困りごとを専門の相談員がお聴きし、サポートいたします。

0120-979-672(通話無料)

仙台に住むIさんは、津波で夫を失った。あれから3年が経つ。
まさか、自分が走るとは思わなかつた。

臨床検査技師の夫は、10年4月、市立石巻病院から、市立雄勝病院の検査技師長に赴任していた。

その1年後に震災に見舞われた。海岸沿いに立つ病院だが、40人いる入院患者を残しては、避難できぬい。そう言って、医師や職員28人が院内に留まつた。津波が、瞬く間に病院の建物を呑み込んでいく。2階まで浸水したときに、3階の患者を屋上に引っ張り上げていた夫が、目撃されている。屋上に逃れたものの、押寄せせる津波に流され、入院患者全員が亡くなつた。職員で助かったのはたつた4人だつた。

老後は「ふたりで旅行を」の約束

自由奔放な夫だつた。妻子を放つてひとり旅を決め込み、写真を撮つてはコンクールに応募する。だが、10年ほど前から、ふたりで旅行することが多くなつた。「子どもが独立したら、ふたりになるんだから」という夫の言葉が、嬉しかつた。

震災から1週間後、夫を探しに行った息子たちが、病院近くで遺体を見つけた。

女川町に住む両親も、津波で命を落とした。

以来、地域の自治会などの活動に没頭してきた。夫によく言われたのを思い出す。

「あなたにしかできないことがあるはず」

それを実践しているつもりだが、心にぽっかり空いた穴は、なかなか埋められない。

そんなとき、取材を受けた。再び夫の死がクローズアップされてきて辛い。何度も訪ねてくる記者と話すうちに、だんだんと打ち解けて、心が整理されていくような気がした。

「海の見える病院一語れなかつた雄勝の真実」という本が出版されたあとも、記者との交流は続いた。

今年5月、その記者が主催する「東北一仙台 400

震災後の風景

kmリレーマラソン」を知らされた。連休を使って、東京から仙台まで、1日40～50kmを走つてくるのだといふ。駅を中継地として、入れ替わり20人前後のランナーが襷をつないでくる。

ブログには、毎日、大勢のランナーが、弾けるような笑顔で中継駅に到着する様子がアップされている。おそろいの青いTシャツには「忘れない 3・11」。裏面には「東北に思いを馳せて 私は、走る。」

青い色は海を連想させるから嫌だったが、付き合いでも自分も1着、注文した。

「なんとばかりたことを」

初めは、冷めた目で見ていたが、400kmを一歩ずつ自分の足で走つて近づいてくるランナーたちをブログで見ていると、なぜか声援を送りたくなる。時が経てば、震災は風化する。だが、この人たちは、それを承知で自身に向けて「忘れない」と、誓つている。

記者からメールが届いた。

「ゴールに来ませんか」

青いランナー集団と一緒にゴール

5月10日、仙台の勾当台公園が最終のゴールだといふ。青いTシャツは、やはり着る気にはなれないが、バッグに入れて持つていった。

ゴールで待つていると、先回りしていたスタッフに声をかけられた。

「最後だけ、一緒に走りませんか」

とんでもない。断つた。

遠くに「ワッショイ、ワッショイ」の声が聞こえた。400kmをつないだ青い集団が、目抜き通りの向こうに見え隠れする。

思わず、洋服の上からTシャツを着込んだ。スタッフに手を引かれて、横断歩道を青い集団に向かって歩んでいた。歓喜の声を上げながら近づいてくるランナたちに呑み込まれる。

そして、いつの間にか一緒に走つていた。

本棚 遊泳

1冊200円の「天声人語書き写しノート」で、朝日新聞の名物コラムを1日1回書き取っている。約600字を読み取りながら正確に書くと30分近い大仕事。いまさら脳トレでもなく、日常にメリハリをつけようと己に課した日課である。だから重荷にしてはいけない。これから的人生は気軽にと思うから、書き写しを「写経」と称して楽しんでいる。

人生軽やかに生きる『大人の絵本』

毎朝、NHKテレビ体操に付き合っている。早めにスイッチを入れると、週一回(木曜日)、「モタさんの“言葉”」という5分間のミニ番組に出会う。淡い絵をバックにゆるやかな言葉が流れる。聴いていると、人生を軽やかに生きようという気分になる。

2012年から放送の人気番組を完全書籍化した本を東京駅前の大手書店で探した。ようやく見つけたのが「心理エッセイ」コーナー。「モタさんの“言葉”2」(講談社、2013年11月刊、95頁、1200円税別)の居場所としてはちょっと固くありませんか。

表紙でおわかりのように大人の絵本。「文」はモタさんこと精神科医であった斎藤茂太さん、「絵」は絵本作家で画家の松本春野さん。モタさんは歌人で精神科医だった茂吉の長男。90歳で亡くなつたが、自らの家族やこころをテーマにした著作を数多く残した。何ごともプラス思考の達人で、「言葉の処方箋」と言われた数々は、弱り果てたり、戸惑つたりした人々に「人生軽やかに」のヒントを与えてきた。

「2」とあるのは同じ書名の本(2012年刊)に次ぐ続編で、4話からなる。その一つ、第七話「過去は…」から



モタさんの言葉を拾うと――

取り返しがつかないようなことが起つたときは、悩むより先にベッドに入って寝てしまう。よくよするよりは、寝るのがいちばん。翌朝起きたての冴えた顔で、善後策を考えればいい、と。

話は、みごとなほど、絶対に後ろを振り返らなかつた母に戻る。空襲で病院とわが家が灰燼に帰したとき、母は幾棹ものタンスいっぱいの着物を失つた。ため息ものの、すばらしいものだった。「おかわいそう」と看護婦の涙が止まらなかつたのに、当人はあつさりして「むしろ、さっぱりしたわ」。口先だけでなく、以後一度も「あの着物があれば…」と口にしたことはなかつた。その遺伝子が流れているらしい、と。

この大らかさを見習えれば、過ぎ去つたことをいつまでも思い悩むことなく、次の一步が踏み出せる。思えば、人生の大半の時間をすでに消費した身には、残された時間を悩みに費やすことはない。「笑顔はすべて黄金」「現状を変えるのは愛情」などモタさんの言葉は、こころの処方箋である。

老境への道案内もユーモアで

悩みなんて、というのは簡単だが、老いとどう向き合うかは大変だ。漫画家、やなせたかしさんが著したアスキー新書『天命つくるその日まで』(2012年刊、800円税別)を読むと、その辺のもやもやが解消されるかもしれません。

アンパンマン生みの親、やなせさんは昨年10月、94歳で亡くなつたが、その前年に「老境の道案内書」として書き下ろしたのが本書である。「想定外の晩年」「準寝たきり老人の夢」「恋せよ爺さん」など39編のエッセイ集。

高齢の自身も体はボロボロ。それでも日常生活の苦労もすべて笑いに変えて、全編ユーモアたっぷり。本を開くと7枚の漫画に「言葉」が添えられている。

「老年ボケやすく／学ほとんど成らず／トンチンカンな人生／終幕の未来も／なんだかヤバイ／それでも笑って／ま、いいとするか」

(m)



2013年度 医療相談886件、週3日制で大きく伸びる

2013年度医療相談内容の内訳

| 相談項目 | 件数(割合) |
|-----------|----------|
| 協会に関すること | 43(5%) |
| 宣言書に関すること | 122(14%) |
| 疾病に関すること | 123(14%) |
| 医療内容 | 380(43%) |
| 主治医との関係 | 42(5%) |
| 医療機関・施設情報 | 77(9%) |
| 費用に関すること | 12(1%) |
| その他 | 87(10%) |
| 計 | 886 |

協会が実施している電話による「医療相談」の2013年度の結果がまとまつた。相談日の週3日制が定着して、相談件数は470件と前年度より30%増。1件の相談で複数の内容もあるので内容項目の総計は886件と、前年度(532件)より大幅に増えた。

相談内容の大別は左表の通りで、医療内容に関する相談が380件と43%を占め、前年度(189件)より件数で2倍増。医療内容の中身では、延命措置、尊厳死の尊重、治療内容についてがほぼ三分。延命措置にかかる相談(135件)で最も多いのは「胃ろう」など「水分・栄養補給」に関する相談が95件。

相談内容については次の傾向がみられると、相談員は指摘している。

- 1) 療養の長期化により、現在の治療が延命措置に相当するのではないか。
- 2) 高齢で長期の寝たきりになり、LWを尊重した自然死をどう模索したらよいか。
- 3) 主治医との話し合いができず、双方のギャップが埋められない悩み。

実際の終末期医療について会員・家族が困難な状況に追い込まれているケースが増えていることを示している。

会費納入の「コンビニ店」利用、半数近くに

4月から会費納入は、「ゆうちょ銀行(郵便局)」のほかに新しく「コンビニ店」利用も始まりました。1か月間の利用状況は、ゆうちょ銀行53%、コンビニ店46%で、今後、コンビニ店利用が増えると予想されます。

会費納入期に当たる会員には両方併用の払込票をお送りしていますが、「コンビニ店利用」の際に注意点も浮かびましたので、次の点をよろしくお願ひします。

あらためてお願ひ

- 1 払込取扱票は「住所等非表示」です。「住所」記入の必要はありません。
- 2 コンビニ店(払込手数料必要)では、払込票を店の事務処理に使います。住所変更や協会への連絡事項を記入しても、協会には届きません。必要な場合は「郵便局」利用をお願いします。
- 3 バーコード部分を折り曲げると、コンビニ店では読み取れず、利用ができない場合があります。

(社)日本尊厳死協会

関西 支部

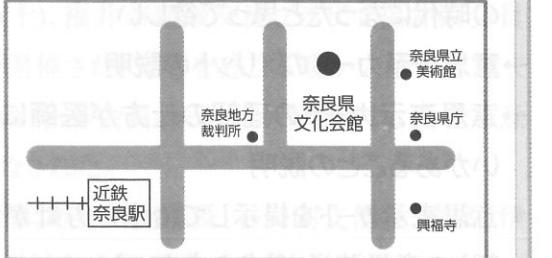
支部長
長尾 和宏

住所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365 メール kansai@songenshi-kyokai.com
FAX 06-4866-6375 ホームページ <http://www.songen-ks.jp>

古都奈良の秋
を楽しみながら

2014年 関西支部講演会 参加費無料

日 時 10月5日(日) 13時~16時20分(受付開始12時)
会 場 奈良県文化会館国際ホール(奈良市の県庁西隣)
ア クセス 近鉄奈良駅徒歩5分。JR奈良駅徒歩20分・バス10分
定 員 1,000人



「おひとりさまの最期～家でひとりで死ねますか」

講 師 社会学者・立命館大学大学院先端総合学術研究科教授 上野 千鶴子

主な著書 『老いる準備』『おひとりさまの老後』『みんな「おひとりさま」』他多数

懇談会 15時20分~16時20分(小ホール、講師・協会役員との意見交換会 定員 300人、当日申込)

お申込み 事務所まで。お名前・住所・電話番号をFAX又はメールで

会員外の方もお誘い合わせの上、気軽にお越しください。

当日お手伝いいただけるボランティアさん(10人)を募集しています。お問い合わせは事務所まで。

尊厳死の本が 5冊も世に出て

関西支部長 長尾 和宏

「尊厳死って安楽死と同じですか?」どこに行っても必ず聞かれる質問です。もちろん両者は全く異なるものです。「安楽死とは薬物などで人工的に死期を早めるもの。一方、尊厳死は緩和医療はしっかりやってもらいながら自然の経過に任せる旅立ち。日本尊厳死協会は安楽死に反対です」と何度も説明してきました。

尊厳死はしばしば安楽死と混同されがちです。3年ほど前、石飛幸三先生が『平穏死のすすめ』という本を書かれ話題になりました。「平穏死」とは石飛先生の造語。尼崎に講演に来られた際に、「尊厳死」と同義

であることを直接確認させて頂きました。私はその秋、関西支部の講演会で『平穏死のための10の条件』という演題でお話をしました。その講演録がネットにアップされたのが出版社の目にとまり書籍化のお話を頂きました。それが『平穏死10の条件』という形で19作目の書籍として出版され、13万部を超えるベストセラーとなりました。

その後、『胃ろうという選択、しない選択—平穏死から考える胃ろうの功と罪』、『平穏死という親孝行』、『家族が選んだ平穏死』、『平穏死できる人、できない人』と、タイトルに「平穏死」がつく本を5冊も出版するという幸運に恵まれました。お陰さまでどの本も多くの支持を頂いています。何冊かは韓国、台湾、中国で翻訳本も出ています。しかしタクシーの運転手さんに聞いてみても「ヘイオンシ?どんな字書くの?」というのが悲しいかな、現状です。それどころか、私のクリニックにはさま

ざまな医師が研修に来ますが、これまで「平穏死」という言葉を知っていた医師はゼロでした。医学教育には死に関する教育は皆無に等しいのが現状。診療の合間に講演で全国を飛び回る日々ですが、穏やかな旅立ちがあることをもっと多くの市民や医療関係者に知りたいと願っています。会員の皆様もよろしければ拙書をご一読頂ければ幸いです。印税は全額、福島県相馬市の震災孤児に寄付していますので被災地支援にもなります。

関西支部からの 「エンドレスメッセージ」

悠々として急げ

支部理事 畑中 治郎



□144号で京都、四条河原町にあるビル外壁に彫り込まれたラテン語の古い諺を紹介したところ、早速に場所についての問い合わせがあった。中でも興味を持たれたのはFESTINA LENTE(フェスティナ・レンテ)「悠々として急げ」であった。調べてみると、大阪市立大学の学部生向けガイドブック『Un Roseau(一本の葦)』に載っていた。明治中期に来日し日本にドイツ哲学とギリシャ・ラテン古典学を伝えたフォン・ケーベル博士から恩師の恩師が賜ったと紹介されている。ちなみに大阪市立大学は芥川賞作家開高健の出身校である。サントリー社長佐治信忠氏は父敬三氏の心友だった開高健氏に帝王学を学んだが、氏から聞いた「悠々として急げ」が座右の銘だそうだ(『日経』2001年9月3日より)。

□ケーベル博士ゆかりの洋食屋が本部事務局の付近にあることがわかった。神田淡路町の洋風かき揚げの店「松栄亭」である。『散歩のとき何か食べたくなって』(池波正太郎2001年3月新潮社)神田・連雀町の頁に詳しく載っている。ここで供されるウスターソースは美味く、店でも購入できる。

□さて話は変わるが、仲の悪いのは犬猿の仲、英語では「cat-and-dog」と言う。私はよく吠えるらしく、妻からは犬に例えられるが、犬は加齢が早く人の5倍とか。私もそうなのか。アラサー(30歳前後)、アラフォー(40歳前後)、

アラカン(還暦前後)は過去の事、今はアラロー(後期高齢者前後)が主流。私も後期高齢者に入った。若い頃は30分あれば洗顔、髭剃り、朝飯、ネクタイを結んで飛び出した。今は外出に随分と時間がかかる。そして1年が早いのだ。

□時の過ぎ行く間に(As time goes by ...)人生は短い。私の最晩年は「悠々として急げ」をモットーとしたい。これはLWの「健やかに生き、安らかに逝く」に通じる。最期は「悠然」と過ごしたいのだ。

□FESTINA LENTE(フェスティナ・レンテ)を問い合わせ、訪ねあてたと喜んで報告をいただいたその方は、昨秋に他界されたと聞く。

支部ニュース

1 第2回サロン交流会

日 時 7月29日(火)14時~16時
場 所 支部事務所
話題提供者 支部理事 西口英雄
テマ 「人生は空の旅に似ている」
キーワードは軟着陸
申込み制 会員、非会員を問いません。定員15名
7月25日(金)までに電話(06-4866-6365)でお申込下さい。FAX・メールも可です。

2 関西風景写真をお寄せ下さい

支部ホームページのトップの関西風景写真は毎月更新しています。皆さん撮られた関西の風景写真を郵送またはメール(添付して)で、事務所へ、氏名、住所、電話番号を明記して、お送り下さい。なお掲載する写真については、縦1対横3の横長サイズに加工処理しますのでご了承下さい。写真は順次紹介の予定です。

3 出前講座に講師を派遣します。

テマ 尊厳死に関するもの
場所 主催者でご用意下さい。
費用 ご相談下さい。
申込 ホームページの申込書をご利用下さい。

4 サポーター募集(補充:5名)

支部の各種行事、広報等のサポート。ご希望の方は支部事務所にお問い合わせください。